



## いわてキボウスター開拓塾第6期成果報告会を開催しました

いわてキボウスター開拓塾第6期成果報告会を9月20日、盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）で開催しました。

今期、学生はマーケティングやファイナンスなどビジネスに必要な知識の習得と並行してフィールドワークを重ね、ビジネスプラン作成に取り組んできました。

当日はチームまたは個人による農業、林業、観光、公共交通（鉄道）など7つのプロジェクトによる発表が行われ、学生は約100人の出席者を前に各々がこれまで



積み上げてきた成果を熱心にアピールしました。

今年度がふるさと創生プロジェクトの事業最終年度となるため、事業の一環として2016年10月に開講したこのいわてキボウスター開拓塾も第6期をもってひとまず終了となりますが、これまでこのプログラムで学んだ学生たちが将来、地域リーダー人材として地域を牽引していく存在になることを期待しています。



### 参加 学生の声

渋谷 柚花  
岩手大学農学部1年

私がこのプロジェクトを通して得たもので特に印象に残っているのが「知識を学び、実践し、反省し、さらに応用させていく」というプロセスの大切さです。

例えば、講義で知識を得た後、イベントや調査を実際に行う中で初めて自分たちの死角や詰めの甘さに気付くということが何度もありました。しかし、それは知識をただ詰め込むだけでは得られないことであり、「超実践型」であるいわてキボウスター開拓塾ならではの学びだったと感じています。今後はこの活動で得たことを生かし、さらに多くの経験を積みみたいと思います。



アドバイザーボード  
委員長  
一般社団法人  
岩手経済同友会  
代表幹事  
高橋 真裕

キボウスター開拓塾で印象に残ったことが二つあります。一つは、受賞チームはもとより多くのチームが実現可能性の高いビジネスモデルであったことです。開拓塾が回

を重ねるごとに熟練度を増していることを如実に示しています。一方で、現実的であるが故、新しい発想が生み出す驚きや感動、ワクワク感といったものがやや不足する思いがしました。

もう一点は、新しいことに挑戦する好奇心や意欲が溢れていたことです。地域にとって明日への確かな備えは人材の育成ですが、塾生の成長を後押しする当塾の役割の大きさを改めて感じた次第です。

## ふるさと創生協議会全体会議を開催しました

ふるさと創生協議会（会長：岩淵明岩手大学長）の全体会議を7月17日、自治体、産業界、高等教育機関などの関係者約60人が出席し岩手大学復興祈念銀河ホールで開催しました。岩淵会長の挨拶のあと、昨年度事業実績及び今年度事業計画について小野寺COC+推進コーディネーターより説明が行われ、了承されました。また、任期満了に伴う役員改選が行われ、現役員が再任されました。

全体会議後は、ふるさと創生プロジェクトが今年度をもって国庫補助事業としては終了を迎えることを踏まえ、岩手県から新しい総合計画（いわて県民計画（2019～2028））について説明してもらうとともに、今後のCOC+事業のあり

方について出席者で意見交換を行いました。

来年度以降、本プロジェクトは地域として自立した取組が求められることとなりますが、補助期間終了後も引き続き事業の継続発展を目指すことを共通認識として、今後も事業協働機関及び関係機関と連携しながら事業のあり方について検討を進めていきます。



## 地域志向型インターンシップについて

2016年に岩泉町から始まった地域志向型インターンシップは、今年、二戸・葛巻・岩泉・花巻・北上・釜石・一関の7つの地域で行われ、50名を超える学生が参加しました。地域が増えたことにより、農業、製造業、観光業、小売業そして公務と、受け入れてくださる事業所の職種も広がりました。インターンシップの開催時期も8月から9月にかけて全般的に行われ、学生も自分の関心のある分野を予定に合わせて選択しやすくなりました。

また今年は県内の大学だけではなく、首都圏の大学からの参加者も増え、学生同士の交流も盛んになり、それぞれの視点が違うことに気付くなど、お互いに刺激になったようです。

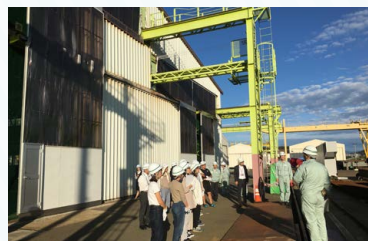
地域志向型インターンシップは従来の「働くこと」を中心テ

マにしたインターンシップとは異なり、それにプラスして地域で「暮らすこと」をもテーマにしたインターンシップです。学生たちが県内各地で地域に触れながら

「働くこと」だけではなく「暮らすこと」も考えながら、自分の進路を考えていけるよう、今後は各地域のノウハウを持ち寄り、更なるインターンシッププログラムの向上に生かしていけるようなシステム作りが必要と思われます。



## 岩手県内事業所見学バスツアーを実施しました



8月8日一関市、9月5日久慈市、18日奥州市、24日花巻市の各地で、参加自治体・企業等の全面的な協力により、岩手県内事業所見学バスツアーを実施しました。

このツアーは、学生が地域企業について知り、地元定着の促進につなげることを目的に企画・実施しているもので、岩手大学生

49名(延べ数)、盛岡大学生1名が参加し、一回につき3～5か所の事業所を回り、事業所の見学やそこで働く方々との交流などを通じ、地域にも優れた企業があるとの認識を深めました。

参加者からは、「多くの方のお話を聞いて、自分のキャリアに関してより深く考えるきっかけになった」(一関市参加者)、「市役所の方がついて下さったので、奥州市で働こうと思う人にとっては県内の工場見学を漠然と行うよりはイメージがまとまりやすいツアーだったのではと感じた」(奥州市参加者)などの感想が寄せられました。

## 「ふるさと発見!大交流 in Iwate 2019」について

11月23日に滝沢市の岩手産業文化センター(アピオ)で開催する「ふるさと発見!大交流会 in Iwate 2019」では、広報活動の一環として事前取材を希望した団体を学生実行委員が訪問し、事業内容や地域との関わり、将来の展望等についてインタビューを行いました。日々の業務に携わっている方から実感のこもったお話を伺ったり、実際の現場を見学させてもらう機会を頂いたりなど、学生にとって非常に有意義な体験となりました。

取材の内容は本プロジェクトのFacebook(<https://www.facebook.com/iwate.cocplus/>)に順次掲載予定です。

ふるさと発見!大交流会 in Iwate も今年で3回目になりました。個人的には2018、2019と学生実行委員として企画から携わり、県内各地で活躍する企業のみなさんを取材させて頂きました。

この岩手には「働き方をより良いものに」、「社員が働きやすいように」、「地域に密着し地域のために」、「改善を重ねてより良い商品に」など、ここではとても収まりきらないほどの熱い思いを持った企業が、ヒトが、たくさんいます。取材を進める中でこうした思いに触れるたび、一層「岩手の学生にこの人たちのことを知ってほしい」という思いが強くなっていきました。そして受け取った熱い思いを我々なりに発信し、より多くの人に知って頂きたいと考えています。大交流会当日はぜひその熱い思いに直に触れ、皆さんそれぞれの「新しい岩手」を発見してください!お待ちしております!

学生  
実行委員  
より一言

学生実行委員会委員長

大山 一樹  
岩手大学  
人文社会科学部3年



## 盛岡市制施行130周年記念フォーラムに いわてキボウスター開拓塾生がパネリストとして参加しました



6月30日、盛岡劇場で開催された盛岡市制施行130周年記念フォーラムのパネルディスカッションにいわてキボウスター開拓塾生2人がパネリストとして参加しました。

「若者が描くまちづくり」と題したこのパネルディスカッションでは、県内の大学、専

門学校に通う盛岡市にゆかりのある学生4人がパネリストとして登壇し、次世代を担う若者の視点から盛岡の魅力やこれからの街づくりに必要なことなどについて意見を交わしました。

いわてキボウスター開拓塾からは第6期生の岡部航大さん(岩手大学大学院総合科学研究科1年)と浅井田望美さん(岩手県立大学社会福祉学部4年)の2人が参加し、日頃感じている盛岡の街の良さや課題と考えている点などについてそれぞれ発表を行いました。